



ベストポスター賞

初期臨床研修医 片岡 慶

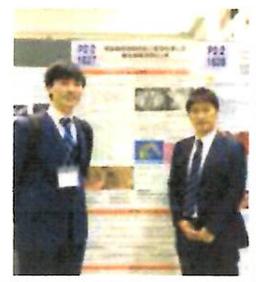
11月8日より2日間、名古屋へ国病学会に参加させて頂きました。4月より研修が始まり、日頃から救急カンファレンスや抄読会など研修医同士での勉強会にて発表練習をしていく事で、発表のレイアウトのマナーや発表時間の調整方法などが身につけてきたと思います。

8月には合同カンファレンスにて多くの先生方の前で発表する貴重な機会を頂き、自己免疫性膵炎についての症例報告をしました。発表後の先生方からの質問に所々怯んでしまうこともありましたが、良い緊張感を体験させて頂きました。

今回の国病学会では、「放射線性直腸潰瘍と鑑別を要した腔癌直腸浸潤の1例」という症例報告をさせて頂きました。3分間という短い制限時間で内容の濃い発表をする必要があり、何度も指導医の平野先生と試行錯誤し、その後消化器内科の先生方全員とも予行練習をさせて頂いたことで、

当日はスムーズに発表することができました。

今回ベストポスター賞を頂くことができたのは、こうした発表練習や発表準備の積み重ねと平野先生並びに消化器内科の先生方のアドバイスの賜物だと思っています。来年の国病学会でも賞が獲得できるように頑張ろうと思います。来年は新潟で行われます。新潟のグルメを知っている方はぜひ教えて頂けると助かります。よろしくお願い致します。



ベストポスター賞

初期臨床研修医 渡部 真

令和1年11月8日、9日に行われた第73回国立病院総合医学会にて私が発表させて頂いた「画像上悪性の可能性を否定できなかったリンパ濾胞過形成を伴った多房性胸腺嚢胞の一例」がベストポスター賞をいただくことができました。

このような光栄な賞をいただけたこと、とても嬉しく思うと同時に初めての学会発表で抄録やポスターの作成に苦勞していた私を親身に指導してくださり、応援してくださった先生方への感謝の念で一杯です。

予演会を幾度となく開いていただき、夜遅くまで質問に答えていただきました。発表準備に追われていた当時はとても辛かったですが思い返せばいい思い出です。

当日は多くの方が私を取り囲んでいる中の発表という初めての経験に緊張しましたが、心を落ち着かせて発表、質疑応答ができたと思っています。発表後にはベストポスター賞、そして先生にお褒

めの言葉もいただき苦勞が報われました。

多くの方々の協力があったからこそ頂いた賞だと思っています。誠にありがとうございました。

